



血管内カテーテル治療 について



放射線診断科部長兼
画像診断センター副センター長
大川 賀久

放射線診断科では、CTやMRIなどの画像診断以外に血管内カテーテル治療を行っています。

この治療は、カテーテルという軟らかいチューブを血管内に入れて、さまざまな治療を行うものです。外科手術と比較して体への負担が格段に少なく、傷もほとんど残りません。

例えば、肝臓がんの患者さんが何らかの理由で手術が行えない場合に、この治療法の出番となります。がんの栄養を運ぶ動脈にカテーテルを入れて、抗がん剤や血管を閉塞させる塞栓物質を注入します。そうすると、栄養が届かなくなったがんは縮小し、消失することもあります。この治療は体への負担が少ないため、再発がんに繰り返して行うことも可能であり、肝臓がん治療の一つの柱となっています。

また、出血の治療にも力を発揮します。肺からの喀血、消化管出血、

交通事故などで傷ついた肝臓などからの出血、産後の子宮出血などに対して、出血している動脈にカテーテルを入れて塞栓物質を詰めて止血します。また逆に血栓を詰まった動脈に血栓を溶かす薬を注入して治療することもあります。

放射線診断科では、これらの治療を年に60件ほど行っています。この治療法はX線テレビを使用するため放射線被ばくを伴います。最新の機器を使用しており低被ばくで行えますが、X線テレビの使用時間をできる限り短くするように常に配慮しています。

血管内カテーテル治療は、患者さんが受けられる利益が放射線被ばくや合併症の危険よりも上回る場合に、患者さんに十分な説明をして納得いただいた上で行っています。安心して血管内カテーテル治療をお受け下さい。

「フレイル」って

何だろう？

市立総合病院 リハビリテーション技術科

フレイルとは、加齢と共に心身の活力（筋力・認知機能・社会とのつながり）が低下し健康障害を引き起こしやすい状態のことで、予防をしないと徐々に要介護状態に陥る可能性が高まります。「最近痩せてきた」「前よりも疲れやすくなった」「歩く速度が遅くなった」「外出するのがおっくうになった」などがフレイルの予兆となります。フレイルになると、健康な人に比べて「転びやすくなる」「日常生活動作能力が悪化する」「死亡率が高くなる」ことが報告されています。

ここ最近では、新型コロナウイルス感染症対策による外出自粛により「ずっと家に閉じこもり1日中テレビを見ていた」「筋力や体力が落ちた」「食事もたまに抜いていた」「誰かと話すことも少なくなった」などの声を多く耳にします。これらは全てフレイルの進行につながってしまっています。特に高齢の方は、感染症予防と同時にフレイルの予防にも十分留意してください。



フレイルの予防には「運動」「栄養」「社会参加」の3つの柱を自分の生活に取り入れ、継続していくことが重要です。

①運動は、定期的な散歩や体操をしましょう。普通歩きを3分間、早歩きを1分間を交互に繰り返す行うと効果的です。室内では「その場足踏み」や、つかまるものがある場所で「片足立ち」「軽いスクワット」も良いでしょう。

②栄養は、筋肉や骨を強くするために肉、魚、卵、豆腐や納豆、牛乳やヨーグルトなどのタンパク質を十分取りましょう。

③社会参加は、3密への注意は必要ですが、趣味や自治会の活動、地域の行事など、積極的に参加することも大切です。

フレイルを予防することで、人生100年時代に向けて健康寿命を延ばし、生き生きとした生活を送りましょう。

